

## 愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

### 研究に対するご協力のお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

研究課題名	当院での直腸癌に対するロボット支援下手術の治療成績
研究機関名	愛媛大学医学部 消化管・腫瘍外科学講座
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山 隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 消化管・腫瘍外科 (職名) 助教 (氏名) 高木健次
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2028年 12月 31日
対象	2015年1月から2023年8月に愛媛大学医学部附属病院の消化管腫瘍外科にて直腸癌に対する直腸切除または切断術を受けられた患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、身長、体重、合併症、既往歴、現病歴、前治療歴、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等 (利用する試料) 通常の診療で使用した後に残った試料(血液・細胞・組織など)
研究の概要	直腸癌に対するロボット手術は2018年4月より保険収載され、当院では2019年10月より導入しています。手術支援ロボットには多関節機能鉗子や手振れ防止機構が備わっており、特に骨盤内臓器の手術において従来の腹腔鏡手術よりも精緻な操作が可能となっています。ロボット手術導入により術中・術後合併症の減少や局所再発率の低下などが期待されますが、実際に腹腔鏡手術との治療成績を比較した報告はまだ少ない状況です。本研究は、当院における直腸癌手術に対するロボット支援手術と腹腔鏡手術の治療成績を比較し、ロボット手術の有効性を明らかにすることを目的としています。
個人情報の取扱い	収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。患者さんを特定するための情報(対応表)は、院内で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。

	<p>また、保管される試料・情報を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部附属病院消化管・腫瘍外科 高木健次 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5975</p>